

以上簡單ニ我滿洲國海軍ノ大略ヲ明ニシタ次第テアル。

S 1.3.1.0 - 1

380

0077

0358

アジア歴史資料センター

新聞發表（承認一周年紀念資料　日文四）

滿洲國司法制度

國務院總務廳情報處

S 1.3.1.0 - 1

381

0078

REEL No. A-0353

滿洲國司法制度

司法部總長

馮潤清

滿洲國司法制度

第一節 審判制度ノ沿革

滿洲國ノ現行司法制度ハ中國司法制度ヲ繼受セルモノニシテ、滿洲國司法制度ノ現状ヲ知ル爲ニハ、一應中國ニ於ケル司法制度ノ歴史ヲ顧ミルコトヲ要ス。蓋シ中國ニ於ケル司法制度バ、日清戰役並ニ天津事變後ニ興レル所謂「變法自鞏」ノ運動ヲ其ノ思想的背景トシ、光緒二十八年ノ英支通商條約、翌二十九年ノ日支並ニ米支通商條約ニ於ケル治外法權撤廢ニ關スル協約ヲ直接ノ導因トシテ、前清末以來來着々トシテ改革セラレ、光緒三十二年高等以下各級審判廳試辦章程ヲ公布シ、宣統元年十二月法院編制法ノ制定公布ヲ見ルニ至レリ、現存ノ審判制度ハ以上二種ノ法令ニ依據シテ成立セルモノニシテ、滿洲國ニ於ケル司法制度モ亦然リトス。

右ノ司法制度ニ對シ、過度的制度トモ稱スヘキ縣司法公署アリ。
1
縣司法公署ハ、縣司法公署組織章程（民國六年公布）ニ基キ、未タ法院
ノ設置ナキ各縣ニ於テ縣公署内ニ附設セラル、モノトス。

s 1.3.1.0 - 1

383

0080

s 1.3.1.0 - 1

382

0079

REEL No. A-0353

0353

アジア歴史資料センター

未タ地方法院又ハ縣司法公署ノ設置ナキ各縣ノ司法事務ハ、縣知事兼理司法事務暫行條例（民國三年公布ニ基キ、縣知事ニ委任シテ之ヲ處理セシムルモノニシテ、兼理司法縣公署ハ法院ノ設置ナキ以前ニ於テハ、中國ニ於ケル唯一ノ審判機關タリシモノトス。而シテ各省猶未タ縣治ヲ設置セサル地方ニハ設治局ヲ置キ、相當ノ時期ニ到リ改メテ縣治ニ改組セシムルコトヲ民國二十一年六月二日公布セリ。

16.2
コノ縣設治局ハ、縣公署ニ準シテ司法事務ヲ行フ。熱河省ニハ兼理司法縣公署ニ相當スル審判機關トシテ承審處ヲ設ク。

第二節 組織及管轄

第一項 地方法院及地方法院分庭

地方法院 地方法院ハ折衷制ノ法院ニシテ、事件ノ審判ハ其ノ性質ニ從ヒ、或ハ獨任推事之ヲ行ヒ、或ハ推事三人ノ合議庭ヲ以テ之ヲ行フ。
地方法院ハ事務ノ繁簡ニ應シテ、民事事庭數ヲ定メ、一人以上ノ獨任推事ヲ置ク。地方法院ハ左記ノ民刑事事案件及其他ノ非訴事件ニ對シ管轄

轄權ヲ有ス（編制法第十九條）。

第一審 初級ノ管轄ニ屬シ、最高法院ノ特別權限ニ屬セサル事件

第二審 一、初級管轄法庭ノ判決ニ不服ニシテ控訴スル事件

六、初級管轄法庭ノ決定或ハ其命令ニ不服ニシテ、法令ニ按照シテ抗告スル事件

地方法院ノ管轄ニ屬スル司法事務ハ、簡易庭、獨任推事、推事三人ノ合議庭ニ於テ分別據當ス。夫々ノ管轄權ニ關シテハ、民事訴訟條例、民事訴訟法、處刑命令暫行條例、刑事訴訟法、修正縣知事審理訴訟暫行章程、覆判暫行條例、法院編制法ニ規定アリ。

其他法院ノ内部組織、事務取扱ニ關シテハ、地方審判廳辦事暫行規則アリ。

地方法院分庭 地方法院分庭ノ組織並ニ管轄ニ關シテハ、暫行各縣地方法院組織法（民國六年四月公布）ニ規定アリ。同法ニ據レハ、「各縣地方分庭之管轄區域與所在縣區域同一」（第二條）「凡屬於初級或

S 1.3.1.0 - 1

385

0082

S 1.3.1.0 - 1

384 0081

地方廳第一審管轄之民刑案件皆歸地方分庭受理（第三條）
本「地方分庭審理、案件以獨任制行之」（第四條）。各分庭ニハ推事一人或ハ二人ヲ置キ、若シ推事二人ヲ置ク場合ニハ資格高キ者一人ヲ以テ監督推事トナシ、該分庭ノ行政事務ヲ監督セシムルモノトス。地方分庭ノ審判ニ不服ナルモノハ、案件ノ種類ニ依リ地方法院又ハ地方法院又ハ高等法院分院ニ上訴スルモノトス。

第二項 高等法院及高等法院分院

高等法院 高等法院ハ合議制ノ法院ニシテ、其ノ審判權ハ推事三人ノ合議庭ヲ以テ之ヲ行フ（編制法第六條）。高等法院ハ事務ノ繁簡ニ應シ、民刑事事庭數ヲ定ム（編制法第二十五條）。

高等法院ハ編制法第二十七條ニ列記スル事件外、修正縣知事審理訴訟暫行章程第三十條第二項、覆判章程第一條ニヨル審判權アリ。又高等法院ハ刑事訴訟法第十條ニ規定スル事件ニ對シ、第一審ノ管轄權ヲ有ス。

最高法院分院 高等法院ノ管轄區域ハ、該高等法院所在ノ省行政區域ニ及フヲ原則トスレ共、地方遼闊或ハ其他不便ノ情形アルトキニ於テハ、高等法院所管ノ地域内ニ高等法院分院ヲ設置スルコトヲ得（編制法第二十八條）、ルモノニシテ、高等法院分院ニハ僅ニ民事庭一、刑事庭一ヲ置ク（編制法第二十九條）。高等法院分院ノ事物管轄ハ、本院ニ於ケルト同一ナリ。高等法院分院ニハ地方庭ヲ附設シ、高等法院分院附設地方庭ト稱ス。附設地方庭ハ組織並ニ管轄ハ地方法院ニ於ケルト同シ。

第三項 最高法院

最高法院ハ全國終審ノ審判機關ニシテ、推事五人ノ合議庭ニ於テ編制法第三十六條ニ列記スル事件ヲ審理ス（「最高法院組織法（民國十七年十一月公布十八年修正）參照」）。最高法院ハ事務ノ繁簡ニ應シ、民事刑事庭數ヲ定ム。現在滿洲國ノ最高法院ニハ刑事一庭、民事三庭ヲ設ケ、每庭ニ推事五名ヲ置キ、一名ヲ庭長トナス（大同元年五月同二

S 1.3.1.0 - 1

387

0084

S 1.3.1.0 - 1

386

0083

年四月司法部訓令)。

第四項 檢察廳

從來中國ノ司法制度ニ於テハ、各級法院ニハ凡テ同一級ノ檢察處ヲ附設セシカ(編成法第八十五條)、滿洲國成立ト共ニ各級ノ檢察處ヲ總檢察廳ト改稱シ、最高檢察廳、高等檢察廳及地方檢察廳ヲ置ク。

6. 檢察官ハ刑事訴訟法及其他法令ノ定ムル所ニ違ヒ、訴訟當事人或ハ公益ノ代表者トシテ特定ノ事項ヲ實行ス(編制法第九十條第一項第二項)。而シ檢察廳ハ法院ニ對シ獨立シテ其職務ヲ執行ス(第九十四條)。而シテ檢察官ハ情況ノ如何ヲ問ハス、推事ノ審判ニ干渉シ、審判事務ヲ掌理シ得サルモノトス(九十五條)。

檢察廳ノ管轄區域ハ法院ノ管轄區域ト同シク、只緊急ノ事情アル場

合ニ於テ、管轄區域外ニ於テ其職務ヲ行フコトヲ得ルモノトス。

第五項 縣司法公署

7. 縣司法公署ハ過渡的制度トシテ、兼理司法縣公署ト法院トノ組織並ニ手續ヲ折衷シテ設ケタルモノニシテ、其組織及手續ハ一部ハ法院制度ニヨリ一部ハ兼理司法縣公署ノ制度ニヨル。

縣司法公署ハ縣公署内ニ設ケ、審判官及縣知事ヲ以テ之ヲ組織ス(二手續ヲ折衷シテ設ケタルモノニシテ、其組織及手續ハ一部ハ法院制度ニヨリ一部ハ兼理司法縣公署ノ制度ニヨル)。司法公署ニ審判官一人或ハ二人ヲ置キ、審判官二人ヲ置ク時ハ一人ヲ以テ監督審判官トナス。而シテ審判事務ニ關シテハ、總テ審判官完全ニ責任ヲ負ヒ、縣知事之ニ干渉スルヲ得ス。縣知事ハ檢察事務ヲ辦理シ、其ノ責ニ任スルモノトス。但奉天省ニ於テハ檢事員ヲ置キテ檢察事務ヲ辦理セシメ、縣知事ハ之ニ對シ監督權ヲ有ス。

8. 司法公署ハ該公署ヲ設置セル縣行政區域内ノ初審民刑事案件ニ對シ審判權ヲ有スルモノトス(第三條)。

S 1.3.1.0 - 1

389

0086

S 1.3.1.0 - 1

388

0085

REEL No. A-0353

8360

アジア歴史資料センター

縣司法公署ノ判決、決定又ハ命令ニ對シテハ、其事件カ初級管轄ニ屬スルヤ地方管轄ニ屬スルヤニ從ヒ、或ハ地方法院或ハ高等法院ヲ以テ上訴法院トナス。

第六項 兼理司法縣公署

兼理司法縣公署ハ、法院設置前ニ於ケル唯一ノ審判機關タリシカ、現在ニ於テモ、法院又ハ司法公署ノ設置ナキ各縣ノ司法事務ハ、縣知事ニ委任シテ之ヲ處理セシメツツアリ。

兼理司法權公署ハ、縣知事ト承審員トヲ以テ之ヲ組織シ、承審員ノ審判セル事件ニ對シテハ、縣知事ト承審員共同ノ責任ヲ負フ。但初級案件ニシテ承審員獨自ニテ審判セルモノハ此限ニ在ス。檢察事務ハ承審員或ハ縣知事之ヲ辦理ス。

兼理司法縣公署ハ、初級及地方管轄第一審案件ニ對シ審判權ヲ有ス。兼理司法權公署ニ於テ審判シタル地方管轄ノ刑事案件ハ、上訴ノ提起ナキ時ト雖モ、其判決ヲ所管高等法院又ハ分院ニ送致シテ之ヲ覆判ス。

兼理司法縣公署ノ第一審事件ノ上訴手續ニ關シテハ、司法公署ノ項ニ述ヘタルト同一ナリ。

第七項 監 所

ヘキモノトス。高等法院又ハ分院ハ右判決ニ對シ、覆判ノ必要アリト認ムル時ハ原審縣知事隣近ノ地方法院、地方法院分庭又ハ他ノ兼理司法縣公署ニ~~裁~~附シテ、覆審ヲ爲サシムルコトヲ得（暫行條例）。

兼理司法縣公署ノ第一審事件ノ上訴手續ニ關シテハ、司法公署ノ項ニ述ヘタルト同一ナリ。

ルモ、其ノ弊害ノ甚タシキニヨリ、滿洲國成立ト共ニ之ヲ廢止セリ
 (疏通監獄辦法如請廢止之件大同元年六月司法部指令字第91號)。

全 國 監 所 數

合計	東省特區	黑龍江省	吉林省	奉天省	省別
二五	二	三	五	一五	新監獄
九九	○	五〇	三六	一三	舊監獄
三八	三	五	七	二三	檢察廳看守所
二七	○	○	二	二五	縣看守所
一八九	五	五八	五〇	七六	計

10

收容囚人數(大同元年十二月)

合計	東省特別區域	黑龍江省	吉林省	奉天省	省別
二一六一〇	四五五	五六六〇	七一一五	八三八〇	豫定收容人數
				四九〇〇	現在收容人數
		八三二〇	三〇〇	七七〇	二三五〇

註 1 热河省不明

即チ全國ニ於テ約貳萬沃ヲ收容シ得ルモ、建國直後公布セラレタル大赦令ニヨリテ著シク其ノ數減少シ、爾後多少増加シタルモ其ノ半數壹萬人ニ充タス。

393 0090

s 1.3.1.0 - 1

392 0089

s 1.3.1.0 - 1

REEL No. A-0353

3364

アジア歴史資料センター

第三節 司法制度ノ改善

司法部ハ成立以來司法運用ノ改善ニ關シ、銳意努力シツツアリ。其ノ改革事宜ニ關シ概略ヲ述フレハ左ノ如シ。

(一) 全國司法豫算ノ統一編成

A 従來各省ニ於テ區々ニ行ハレタリシ請負式ノ豫算ノ運用ハ、弊害誠ニ著シキモノアリシ爲、司法部ハ會計整理委員會ヲ設置シ全國司法豫算ノ秩序アル統制ヲ計ラントシ、部員ヲ各地方ニ派シテ公金運用ノ狀態ヲ検査セシメ、所屬各機關ノ收支決算ヲ明白ナラシメ、大同二年度ニ於テ始メテ体系アル司法豫算ヲ編成スルコトヲ得タリ。
B 地方司法機關會計事務擔當者中、現行會計整理方法ヲ知悉スル者極メテ稀ニシテ、其大部分ハ未タ舊套ヲ脱シ得サル狀態ナリ。斯クテハ司法會計整理ニ多大ノ支障ヲ來スヲ以テ本部ニ於テハ大同二年度ヨリ所屬各機關ニ連絡員ヲ置キ、主トシテ會計事務ヲ擔當セシメンカ爲、目下之ヲ訓練中ナリ。

(二) 司法部法令審議委員會ノ設置

No. 12

法律ハ社會制度ノ反映ニシテ、民意ニ基礎ヲ置カサル法律ハ民衆ノ生活ヨリ離レ空文ニ歸スルヲ思ヒ、先ツ滿洲國ノ各種慣習ノ調査、教令第三號ニヨル「暫ク採用スヘキ從前ノ法令」ノ審査、並ニ將來施行スヘキ法令ヲ審査セシムル爲ニ本委員會ヲ設置シ、研究資料ノ蒐集及整理ヲナシツツアリ。

(三) 行刑制度ノ改革

司法部ハ主要地ノ監獄及看守所ヲ改善センカ爲ニ、行刑司ノ部員ヲ各樞要地ニ派遣シテ監獄ニ於ケル食糧、舍屋、衣服、衛生狀態、及免囚保護並ニ少年矯正ニ關スル調査ヲナサシメタルモ、相當ノ經費ヲ必要トルヲ以テ、新京、奉天、吉林、哈爾賓、齊々哈爾等ノ主要都市ニ於ケルモノヲ新築又ハ修理シ、漸ヲ追フテ改善ニ着手スルコトトシ、不取敢大同元年度ニ於テ奉天看守所ノ大改築ヲナシタルカ、近ク新京看守所ノ新築ニ着手スル豫定ナリ。他方一般監獄行政改善ノ主旨ヲ徹底シムルカ爲ニハ、獄吏及監獄衛生官ノ養成ヲ必要トスルヲ以テ、獄政

S 1.3.1.0 - 1

395

0092

S 1.3.1.0 - 1

394

0091

REEL No. A-0353

0365

アジア歴史資料センター

訓練所ヲ設置セントシ、目下具体案ノ立案中ナリ。

四 主要法院及檢察廳ノ人事改革

司法行政ノ確立ニ伴ヒ、主要地ノ法院及檢察廳ニ學識人格共ニ優レタル司法官ヲ配置スルカ爲ニ、司法官養成所ヲ設置スルト共ニ、少數ノ日本判檢事ヲ招聘シテ裁判及檢察事務ノ指導ニ當ラシメ、且ツ涉外案件ノ審理及檢察ヲ擔當セシメントシ、目下之力人選中ナリ。

四 司法公報、監獄月刊ノ發行

各種ノ訓令、指令、人事ノ移動、主要ナル法令、判決等ヲ所屬各機關ニ周知セシムル爲司法公報ヲ發行シ、又行刑方面ノ方針ヲ所屬各機關ニ徹底セシメ、且ツ監獄事務ニ必要ナル知識ヲ普及セシムル爲監獄月刊ヲ發行シツツアリ。

四 司法法典ノ編纂及修正

A 審判院法、檢察廳法、

司法部ノ「憲法」トモ稱スヘキ審判院法及檢察廳法（此兩者ヲ併

四 14

セテ日本ノ裁判所構成法ニ該當ス一ハ、既ニ第一次草案ヲ完成セリ。滿洲國百年ノ司法制度之ニ代リテ定マルト共ニ、司法法規ノ大部分ハ之ヲ基礎トスルカ故ニ極メテ慎重ヲ期シ、範ヲ日本ノ新裁判所法、檢察廳法（原嘉道氏司法大臣當時ノ立案ニ係ル）ニ取り、一方滿洲國ノ實情ニ即シテ銳意研究中ナリ。

B 刑事ニ關スル諸法典

現行滿洲國刑事實體法及刑事手續法ハ、敎令第三號ニヨリ援用セラルル中華民國刑法及刑事訴訟法ナリ。而シテ此刑法等ハ日本法學博士岡田朝太郎氏等ノ立案、參畫シタルモノニ係リ、極メテ完備セル、近代的法典ナリ。然レ^モ元來中華民國ノ法典ニシテ、滿洲國ノ自ラ制定施行セル法典ニアラス。故ニ獨立國タル滿洲國トシテハ速ニ之ヲ制定スルノ要アリト雖モ、此等ハ何レモ大法典ニシテ、少數者カ短時日ニ編纂シ得ル性質ノモノニ非サルヲ以テ、將來其編纂ニ當^ハ参考資料ヲ目下蒐集整理中ナリ。

C 民事商事ニ關スル諸法典

現行滿洲國民事實體法ハ、敎令第三號ニヨリテ援用セラルル中華民國

民法ニシテ、商事實體法ハ、中華民國公司法（會社法）、票據法（手形法）
一海商法ナリ。而シテ此等ハ何レモ極メテ近代的ニシテ斬新ナル法典
ナリ。然レトモ商法總則商行爲法ニ該當スル規定中、右民法ニ規定シアル
部分ヲ除キ其他ハ商人通例ナル舊式ノ法典ニ據リ、又保障法ハ之ヲ欠
缺ス。次ニ現行民商事手續法ハ、中華民國ノ民事訴訟條例、民事訴訟執行
規則、東省特別區域法院民事訴訟執行規則等ナリ。然レトモ提存（供託）、
破產、和議ニ關スル法典ハ全ク存在セス。公證人ニ關スル法典ニ付テハ、
僅ニ東省特別區域ニ關スル極メテ不備ナルモノアルノミ。故ニ、民事
商事ニ關スル諸法典ヲ制定スルカ爲ノ準備行爲トシテ、目下其ノ參考
資料ヲ蒐集中ナリ。

D 非訟事件ニ關スル法典

登記以外ノ非訟事件ニ關スル法典ニ付テハ、全然法典ヲ欠如シ居レリ。

法人及會社登記ニ付テハ、力ナリ新式ノ立法タル法人登記規則、公司證
商事ニ關スル諸法典ヲ制定スルカ爲ノ準備行爲トシテ、目下其ノ参考
資料ヲ蒐集中ナリ。

(d) 司法機關ノ充實

新式司法機關タル法院、檢察廳ハ極メテ僅少ニシテ、地方ニ於テハ過
渡的司法機關タル縣司法公署又ハ承審處アリ、行政機關タル縣公署又
ハ縣設治局又ハ鑿殖局ニ於テ司法ヲ兼理スルモノアリ。新式司法機關
タル法院檢察廳ト雖モ完全ナルモノハ少ナク、地方分庭又ハ分廳ニ止
マルモノ多々アリ。仍テ此等ノ舊式ニシテ不完全ナル司法機關ヲ新式
司法機關ニ改組スルコトハ頗ル急務ナルモ、事豫算ト關係アルヲ以テ、
先ツ地方分庭又ハ地方分廳ヲ地方法院又ハ地方檢察廳ニ改メ、漸ヲ追
フテ滿洲國全體ニ新式司法機關ヲ配備スル方針ナリ。

(e) 蒙古ニ關スル司法制度ノ改革

No. 17

S 1.3.1.0 - 1

399

0096

398

0095

立シタル後モ何等ノ改革ヲ試ミルコトナク今日ニ至レリ。即チ旗ノ長官タル札薩克力第一審ヲ掌リ、監長力第二審ヲ掌リ、蒙藏委員會(以前ハ蒙藏院)前清時代ハ理藩院一カ第三審ヲ掌レリ。滿洲國獨立後ニ於テハ旗ニハ旗長置カレテ札薩克ハ事實上廢止セラレ、且監長モ亦事實上廢止セラレ、尙ホ蒙藏委員會ナク之ニ該當スルモノトシテ興安總署アリ。蒙古司法制度ノ改革ニ迫ラレ居タルヲ以テ先ツ旗長ヲシテ第一掌ラシムルコトトシ、第二審トシテハ興安省ニ高等法院及分院並高々等檢察廳及分廳ヲ設置シ、第三審トシテハ最高法院ニ特ニ一庭ヲ設ニ審ヲ掌ラシムル方針ナリ。

S. 1.3.1.0-1 400 0097

REEL No. A-0353

0368

アジア歴史資料センター